

ホテルにおける持続可能な発展への取り組み

北京大学学生代表

見学日時：2019年12月3日（火） 9:30-11:00

見学場所：ホテルニューオータニ東京

見学概要

ホテルニューオータニにおいて私たちは生ごみの処理プロセスや浄水及び自家発電施設を見学した。

まず生ごみを肥料に変える施設だが、ここでは毎日ホテルの厨房やレストランから集められた3～4トンの生ごみに対して先ず乾燥処理を行い、質量の約8割を占める水分を取り除く。その後乾燥後のごみを発酵タンクに入れ微生物を利用した発酵処理を行う。そして最後に大きな固体となったごみを粉碎し顆粒状の肥料とする。これらの肥料は契約農家の栽培用に提供され、それらの農家が作った野菜などは改めてホテルが仕入れる。これにより野菜-ごみ-肥料-野菜といった持続的なサイクルを形成している。



処理後の肥料について紹介するスタッフ

次いで私たちは循環浄水施設を見学した。ホテルニューオータニでは厨房において

野菜や魚などの洗浄後の廃水（1日約20トン）を集め、それらの廃水を攪拌池においてバイオ処理した後、沈殿池において水に溶けない顆粒物を沈殿させ、最後に濾過を行うことで再利用可能な「中水」とし、トイレの洗浄用などに使用している。

その他、ホテルニューオータニでは処理後の浄水を、屋上緑化等の灌水として使用している。

最後に、私たちは自家発電設備を見学した。ホテルニューオータニでは合計3台のガスタービン発電機（出力各1500kW）によりホテルにおける30%の電力消費を賄っている。また発電における燃料は天然ガスで、摂氏600度の高温蒸気を発生させるが、この熱は同時にホテル内部の暖房供給に活用されるなど、エネルギーの効率的利用を実現している。

なぜですか？

問：ホテルニューオータニにおける毎月の発電量は？

答：住宅面積100㎡の四大家族23000世帯分の毎月の電力消費量に相当する。ホテルニューオータニの発電設備は、地震や他の突発事件の際のホテルの電力消費を賄うことが可能であり、事前の予防措置をとっていると言える。

感想

ホテルニューオータニにおける持続可能な発展への取り組みは私たちに多くの啓発をもたらした。従来の観念では、ホテルはビジネス企業であり営利が最優先の目的でなければならなかったが、ホテルニューオータニにおける生ごみや廃水の循環利用及び自家発電への取り組みは、直接的な利益以外を求めるものである。施設の管理スタッフを通じて私たちは、これらのごみ処理や浄水のシステムの維持のためにホテルは多くの人力と物資を投入していることを知ったが、これらはホテルの利益をより犠牲にするものである。そしてこれらの循環処理システムに

ついては、国や社会が強制的に導入を求めたものではなく、完全にホテルが自発的に導入したものである。東京都内のすべてのホテルの中で、これほどの規模のごみ処理施設を持つのはホテルニューオータニのみである。

こうした他に先んじる意識、人類から地球レベルでの発展の理念は私たちにとても非常に印象的であった。もしこうした持続可能な発展の理念が消費者やすべての業界における共通認識となれば、ますます多くの資源が節約され、社会全体もまた良い方向に向かうであろう。その先駆者であるホテルニューオータニは、中国の企業が学ぶべき存在である。



ホテルニューオータニ内部の景観